

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	サレジオ工業高等専門学校
設置者名	学校法人 育英学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
専攻科課程	生産システム工学専攻	夜・通信	0	0	16	16	7	
準学士課程	デザイン学科	夜・通信		24	32	7		
	電気工学科	夜・通信		6	14	7		
	機械電子工学科	夜・通信		4	12	7		
	情報工学科	夜・通信		8	16	7		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法： https://www.salesio-sp.ac.jp/main/syllabus/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	サレジオ工業高等専門学校
設置者名	学校法人 育英学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人 育英学院 ホームページ https://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/ikueigakuin.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	R7.5.21～令和9年度定時評議員会	法務・労務
非常勤	金融関係	R7.5.21～令和9年度定時評議員会	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	サレジオ工業高等専門学校
設置者名	学校法人 育英学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業担当者は「シラバス作成のガイドライン」に従い授業計画書を作成する(3月)。所属長は、授業担当者から提出された授業計画書の原稿を点検し、必要であれば授業担当者へ修正を依頼する(4月)。授業担当者は初回の授業で授業計画書を学生へ配布し授業計画書の記載内容を説明する(前期・通年科目:4月、後期科目:9月)。一方、全ての授業計画書はPFD冊子として本校ホームページにて学生・保護者等へ公開される(6月)。 さらに、準学士課程の学生へは選択科目履修ガイダンスを、専攻科課程の学生へはJABEE教育プログラム説明会および入学時のガイダンスを実施している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.salesio-sp.ac.jp/main/syllabus/index.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価・単位認定についてはサレジオ工業高等専門学校教務規則に定められており、全学生に配布される学生便覧(info)に記載され周知が図られている。 授業科目の成績評価では、シラバスに記載された評価方法に則り、授業の到達目標の達成状況を100点満点で評価している。また、成績報告のマニュアルを策定し、年間数回の成績操行会議を開催し、規定に基づいて運用している。 さらに、学生及び保護者による成績評価に関する意見申立についても規程に定められており、教員・学生双方から成績評価の透明性を担保する取り組みをしている。 (参考: http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/regulations.html)</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(準学士課程) 準学士課程では、各科目の成績を点数(100点満点)で評価し、対象となる科目(必修科目および選択必修科目、ただし合否・認否科目を除く)成績の平均点を算出する。学生へは4半期毎に履修科目の成績、対象科目の平均点による学科クラス内順位を「成績通知書」にて提示している。</p> <p>(専攻科課程) 専攻科課程では、各科目の成績を点数(100点満点)で評価し、履修科目(不合格科目および合否・認否科目を除く)成績の平均点を算出する。学生へは半期毎に履修科目の成績を提示するとともに、JABEEプログラム達成度チェックシートにて履修科目成績の平均点によるJABEEプログラム総合達成度を提示している。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/regulations.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(準学士課程) [内容]: 人間性・専門性・国際性に関する技術者として必要な知識・能力を身に付け、学則で定める修業年限以上の期間在学し、167単位以上(一般科目75単位以上、専門科目82単位以上およびすべての必修科目を含む)を修得した学生に対して卒業を認定する。 [実施状況]: 卒業の認定方針に定められた身に付けるべき能力は、教育課程における必修単位の授業に対応付けられており、各能力に対応する授業の単位修得をもってその能力が身に付いたものとしている。また卒業の認定は、卒業判定会議において単位修得状況を確認したうえで、卒業の認定方針に定められた修得単位数を満たす者について認められている。</p> <p>(専攻科課程) [内容]: A. 基礎力、B. 専門性、C. コミュニケーション力、D. 人間性、E. 国際性に関する能力を身に付け、専攻科課程において62単位以上(すべての必修科目を含む)を修得した学生に対して修了を認定する。 [実施状況]: 修了の認定方針に定められた身に付けるべき能力は、教育課程における授業に対応付けられており、各能力に対応する授業の単位修得をもってその能力が身に付いたものとしている。また修了の認定は、専攻科修了判定会議において単位修得状況を確認したうえで、修了の認定方針に定められた修得単位数を満たす者について認められている。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/diploma_policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	サレジオ工業高等専門学校
設置者名	学校法人 育英学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.salesio-sp.ac.jp/main/disclosure/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.salesio-sp.ac.jp/main/disclosure/index.html
財産目録	https://www.salesio-sp.ac.jp/main/disclosure/index.html
事業報告書	https://www.salesio-sp.ac.jp/main/disclosure/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.salesio-sp.ac.jp/main/disclosure/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/self_assessment.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/purpose.html) (概要) 本校は学校教育法により、深く専門の学芸を教授し、高度の工業専門教育を施し、カトリック・サレジオ修道会の教育理念に基づいて国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養い、個性の確立伸長に努めることを目的とする(学則第 1 条)。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/diploma_policy.html) (概要) (準学士課程) 人間性・専門性・国際性に関する技術者として必要な知識・能力を身に付け、学則で定める修業年限以上の期間在学し、167 単位以上(一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上およびすべての必修科目を含む)を修得した学生に対して卒業を認定する。 (専攻科課程) A. 基礎力、B. 専門力、C. コミュニケーション力、D. 人間性、E. 国際性に関する能力を身に付け、専攻科課程において 62 単位以上(すべての必修科目を含む)を修得した学生に対して修了を認定する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/curriculum_policy.html) (概要) (準学士課程) 準学士課程では、ディプロマ・ポリシーに示す能力を身に付けさせるために、5 年一貫教育を念頭に置いて、一般科目、専門科目及びその他必要な科目に対して、編成方針・実施方針・評価方針を定めこれらに基づいて教育を行う。 (専攻科課程) 専攻科課程では、専攻科が掲げる「Tの字型教育」(入学までに身に付けた専門基礎に関する学修成果を縦棒とし、これに立脚する横棒を専攻科課程の「複合領域教育」としたものの)により、ディプロマ・ポリシーに示す能力を身に付けさせるために、一般科目、専門科目およびその他必要な科目に対して、編成方針・実施方針・評価方針を定めこれらに基づいて教育を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/admission_policy.html) (概要) (準学士課程) 準学士課程では、ディプロマ・ポリシーに示される知識・能力を備えた技術者を育成するために、入学者に求める 4 つの人物像を示し、そのような学生を受け入れるために、推薦入学者選抜、総合型入学者選抜、学力入学者選抜など多様な入学者選抜を実施する。 (専攻科課程) 専攻科課程では、ディプロマ・ポリシーに示される「基礎力」、「専門力」、「コミュニケーション力」、「人間性」、「国際性」を備えた技術者を育成するために、入学者に求める 4 つの人物像を示し、そのような学生を受け入れるために、推薦入学者選抜、学力入学者選抜を実施する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/organization.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2 人	—					2 人
デザイン学科	1	4 人	3 人	3 人	0 人	0 人	11 人
電気工学科	0	3 人	6 人	0 人	0 人	0 人	9 人
機械電子工学科	0	2 人	3 人	3 人	1 人	0 人	9 人
情報工学科	1	3 人	3 人	6 人	2 人	0 人	15 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		36 人					36 人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
デザイン学科	0 人	0 人	0%	180 人	158 人	87.8%	若干名人	0 人
電気工学科	0 人	0 人	0%	180 人	90 人	50%	若干名人	0 人
機械電子工学科	0 人	0 人	0%	180 人	153 人	85%	若干名人	0 人
情報工学科	160 人	138 人	86.3%	340 人	326 人	95.9%	若干名人	1 人
合計	160 人	138 人	86.3%	880 人	727 人	82.6%	若干名人	1 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
デザイン	41 人 (100%)	12 人 (29%)	26 人 (64%)	3 人 (7%)
電気工	39 人 (100%)	7 人 (18%)	31 人 (79%)	1 人 (3%)
機械電子工	50 人 (100%)	13 人 (26%)	34 人 (68%)	3 人 (6%)
情報工	35 人 (100%)	10 人 (29%)	20 人 (57%)	5 人 (14%)

専攻科	11人 (100%)	2人 (18%)	8人 (73%)	1人 (9%)
合計	176人 (100%)	44人 (25%)	119人 (68%)	13人 (7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 独立行政法人国立印刷局、ミドリ安全(株)、(株)TMEIC、サントリー(株)、東京ガスネットワーク(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)、JASM(株)、東京電力ホールディングス(株)、日本貨物鉄道(株)、日本飛行機(株)、(株)富士通ゼネラル、(株)JERA、(株)小松製作所、(株)シマノ、三菱電機(株)、日産自動車(株)、北海道旅客鉄道(株)、アマゾンジャパン合同会社、(株)電巧社、東芝エネルギーシステムズ(株)、キューピー(株)、丸紅インテックス(株)、(株)FIXER、(株)インダ、総合警備保障(株) 等々				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業担当は「シラバス作成のガイドライン」に従い授業計画書を作成する(3月)。所属長は、授業担当から提出された授業計画書の原稿を点検し、必要であれば授業担当者へ修正を依頼する(4月)。授業担当者は初回の授業で授業計画書を学生へ配布し授業計画書の記載内容を説明する(前期・通年科目:4月、後期科目:9月)。一方、全ての授業計画書は製本されPDF冊子として本校ホームページにて学生・保護者等へ公開される(6月)。さらに、準学士課程の学生へは選択科目履修ガイダンスを、専攻科課程の学生へはJABEE教育プログラム説明会および入学時のガイダンスを実施している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業科目の成績評価では、シラバスに記載された評価方法に則り、授業の到達目標の達成状況を100点満点で評価している。各学年末の成績操行会議と及落判定会議にて当該学年での単位修得を、卒業判定会議または修了判定会議にて「卒業または修了に必要な単位の修得」を確認している。 卒業または修了の認定にあたっては、「卒業または修了に必要な単位の修得」を確認し、卒業または修了の認定方針(ディプロマ・ポリシー)に示された「卒業または修了時に身につけるべき学力や資質・能力を有するか」を確認している。 ディプロマ・ポリシーに対応づけられた授業科目の単位をすべて修得することによって「卒

業または修了時に身につけるべき学力や資質・能力」が身につくよう「教育課程」を適切に編成している。すなわち、卒業判定会議または修了判定会議における「卒業または修了に必要な単位の修得」の確認によって、「卒業または修了時に身につけるべき知識や資質・能力」を有することを確認している。

これらの成績評価や単位認定については、本校ホームページで公開されている「教務規則」や「教務諸規程」に則り適切に実施されている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
専攻科課程	生産システム工学 専攻	62 単位	有・無	単位
準学士課程	デザイン学科	167 単位	有・無	単位
	電気工学科	167 単位	有・無	単位
	機械電子工学科	167 単位	有・無	単位
	情報工学科	167 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法</p> <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_salesio/student_support.html</p> <p>キャンパス概要</p> <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/student_support/facility.html</p> <p>課外活動の状況</p> <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/campuslife/club.html</p> <p>その他の学生の教育研究環境に関する事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポート <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/student_support/career_support.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアサポート <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/student_support/media_support.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流サポート <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/student_support/regional_ex_support.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流サポート <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/student_support/international_ex_support.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎教育サポート <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/student_support/academic_support.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援センター <p>https://www.salesio-sp.ac.jp/main/student_support/assistenza_center.html</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学年	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
本科1年	630,000円	300,000円	354,000円	全学科共通
本科2年	600,000円	0円	309,000円	全学科共通
本科3年	700,000円	0円	309,000円	全学科共通
本科4年	960,000円	0円	321,000円	全学科共通
本科5年	960,000円	0円	321,000円	全学科共通
専攻科1年	900,000円	150,000円	421,000円	
専攻科2年	900,000円	0円	421,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の学修状況については定期的な会議等で情報共有し、学科と授業担当で成績不振学生や成績優秀学生の指導方針を共有し、学科ごとに適切な支援を行っている。基礎教育委員会では、成績不振に対しては学生の学力に応じた支援授業（補習）、勉学意欲の高い学生に対しては正課授業より進んだ内容の学習を企画・提供している。また、入学予定者に対する入学前授業も基礎教育委員会で企画・提供している。学生支援委員会では、学生が教育課程を効果的に遂行できるよう、修学支援相談員を中心に学生・保護者からの相談に応じている。合理的配慮の提供も同委員会で検討される。</p> <p>メディア図書委員会では図書館やPC演習室等の情報教育環境を整備することによって、学生の学修における図書・PCを利用を支援している。さらに、研究委員会では研究不正防止講習、学生の学会発表にかかる参加費・交通費の補助を実施している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>①「就職・進学」情報の精査と開示 進路（進学・就職）に必要な情報を「高専キャリアサポートシステム「Webclass」を併用し、学生が出来るだけ見やすいよう、掲載・告知を行っている。</p> <p>②「適宜支援行事」を実施、学生の自律を促す 就職志望者に対しては、OB/OGを招いての「キャリアデー」や「校内企業説明会」を開催し、働くことに目をむけさせた後、インターンシップでの実体験へと繋げることで、意識が高い状態での「就職活動」へと導く。また、年12回の開催ペースで、学年を問わず、企業と連携し、オリジナルの説明会・見学会開催を企画し、全学科・全学年・学生・保護者が参加可能なイベントを開催している。</p> <p>進学志望者に対しては、年3回の進学説明会に加え、英語、数学の進学準備講座、数検・英検対策講座等を開催するほか、保護者向けの進学情報発信等を積極的に実施し、学生だけでなく保護者にも進学意識を向けてもらう努力を行っている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の心身の健康等にかかる支援については、学生支援委員会を中心に学生相談室や保健室とともに組織的に行われている。日常的な学生の様子は、学級担任や研究室指導教員が学年会議や学科会議等で情報共有し、支援を必要とする学生へ組織的に対応している。また、学生支援委員会の学生生活相談員（看護師）やスクールカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）が学生・保護者や教職員からの相談に応じ、学生・保護者に対するメンタル面での支援を提供するとともに、スクールソーシャルワーカー（非常勤）と連携して学生・保護者へ対応する教職員を支援する体制となっている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://salesio-et.site/ic/topics>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G113310104588
学校名 (〇〇大学 等)	サレジオ工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 育英学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		27人（ - ）人	28人（ - ）人	29人（ - ）人
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅱ区分	-	-	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	-	-	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	-	-	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	-	0人	
区分外（多子世帯）	0人	0人		
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				29人（ - ）人
(備考) 後半期より2名追加で支援対象となったが、前半期支援を受けていた1名が対象外となったため、 年間の支援対象は29名となった。				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	人	0人	—
GPA等が下位4分の1	人	0人	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。